

学士課程教育における自己点検とその改善に関する年次報告書(総評)

工学部

1. 評価結果一覧

自己点検・評価単位	分析 項目 1-1-1	分析 項目 2-1-1	分析 項目 2-1-2	分析 項目 2-2-1	分析 項目 2-2-2	分析 項目 3-1-1	分析 項目 4-1-1	分析 項目 4-2-1	分析 項目 4-2-2	分析 項目 5-1-1	分析 項目 5-1-2	分析 項目 5-2-1
工学部	5	-	-	-	-	-	-	-	4	4	4	5
機械システム プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
輸送システム プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
材料加工 プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
エネルギー変換 プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
電気システム情報 プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
電子システム プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
応用化学 プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-
生物工学 プログラム	-	5	5	5	4	5	5	5	-	-	-	-
化学工学 プログラム	-	5	4	5	5	5	5	5	-	-	-	-
社会基盤環境工学 プログラム	-	4	4	4	4	5	5	5	-	-	-	-
建築プログラム	-	5	5	5	5	5	5	5	-	-	-	-

自己点検・評価単位	分析	分析	分析	分析	分析	分析	分析	分析	分析	分析	分析	分析
	項目 6-1-1	項目 6-2-1	項目 6-3-1	項目 6-3-2	項目 6-3-3	項目 6-4-1	項目 6-4-2	項目 6-4-3	項目 6-5-1	項目 6-6-1	項目 6-6-2	項目 6-6-3
工学部	5	-	-	-	4	-	-	-	-	-	5	-
機械システム プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
輸送システム プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
材料加工 プログラム	5	5	5	5	-	5	5	4	5	5	5	5
エネルギー変換 プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
電気システム情報 プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
電子システム プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
応用化学 プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
生物工学 プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	4	5	5
化学工学 プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5
社会基盤環境工学 プログラム	5	4	4	5	-	4	5	5	5	4	4	4
建築プログラム	5	5	5	5	-	5	5	5	5	5	5	5

自己点検・評価単位	分析 項目 6-6-4	分析 項目 6-6-5	分析 項目 7-1-1	分析 項目 7-1-2	分析 項目 8-1-1	分析 項目 8-1-2
工学部	-	-	4	4	4	4
機械システム プログラム	4	5	-	-	-	-
輸送システム プログラム	4	5	-	-	-	-
材料加工 プログラム	4	4	-	-	-	-
エネルギー変換 プログラム	5	4	-	-	-	-
電気システム情報 プログラム	4	5	-	-	-	-
電子システム プログラム	5	5	-	-	-	-
応用化学 プログラム	5	5	-	-	-	-
生物工学 プログラム	4	5	-	-	-	-
化学工学 プログラム	4	5	-	-	-	-
社会基盤環境工学 プログラム	3	5	-	-	-	-
建築プログラム	5	5	-	-	-	-

(⑤十分に適合する ④適合する ③やや適合する ②余り適合しない ①適合しない)

※自己点検・評価単位欄には、自己点検・評価単位(学部、プログラム名等)を記載してください。

2. 評価結果に対する総評

領域1：教育研究上の基本組織に関する基準

分析項目 1-1-1 ⑤ (工学部)

適切な状況である。

教育研究活動等を展開する上で必要な運営体制が、学部として、あるいは類として、また主専攻プログラムとして、代議員会や教授会、教員会等の形で適切に整備されており、それぞれの組織形態において適切に機能している。

領域 2：内部質保証に関する基準

分析項目 2-1-1 ⑤=10プログラム, ④=1プログラム

分析項目 2-1-2 ⑤=9プログラム, ④=2プログラム

分析項目 2-2-1 ⑤=10プログラム, ④=1プログラム

分析項目 2-2-2 ⑤=9プログラム, ④=2プログラム

おおむね適切な状況である。

各主専攻プログラムでは、毎年定期的に教員相互の授業参観を実施し、その結果を教員間で共有することにより教育の質の向上を図るとともに、学生による授業改善アンケート結果を分析して教員によるコメントを学生にフィードバックすることにより授業の改善に努めている。自己点検・評価を行う仕組みがそれぞれの主専攻プログラムで構築され、PDCAを回す取組みが継続的に実施され、機能している。

領域 3：情報の公表に関する基準

分析項目 3-1-1 ⑤=11プログラム, ④=0プログラム

適切な状況である。

学部、類、主専攻プログラムの入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)、教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)は、全学、学部、類、主専攻プログラムのホームページや学生便覧、あるいは独自の配布物等を通じて広く公表され、教職員・学生にも周知されており、説明責任を果たしている。

領域 4：施設及び設備並びに学生支援に関する基準

分析項目 4-1-1 ⑤=11プログラム, ④=0プログラム

分析項目 4-2-1 ⑤=11プログラム, ④=0プログラム

分析項目 4-2-2 ④ (工学部)

おおむね適切な状況である。

施設・設備に関しては、多くの主専攻プログラムにおいて独自の図書スペース等を設け、学生が自由に図書、学術雑誌、文献等を閲覧できる環境を整備しており、また、学生の自主的学習を支援するスペースの確保にも類単位で努めているところが多い。学生支援に関しては、いずれの主専攻プログラムにおいても少人数の学生に対してチューター教員を配置し、履修指導に限らず学習・生活面等の様々な支援に対応する体制を整備している。

領域5：学生の受入に関する基準

分析項目5-1-1 ④（工学部）

分析項目5-1-2 ④（工学部）

分析項目5-2-1 ⑤（工学部）

おおむね適切な状況である。

工学部入学試験委員会の下、アドミッション・ポリシーに沿った適切な実施体制で学生の受入が行われ、入学定員超過率は各類・工学特別コースで1.02倍～1.04倍、工学部全体で1.03倍であり、入学者数は入学定員に対して適正な数となっている。

領域6：教育課程と学習効果に関する基準

分析項目6-1-1 ⑤（工学部）、⑤=11プログラム、④=0プログラム

分析項目6-2-1 ⑤=10プログラム、④=1プログラム

分析項目6-3-1 ⑤=10プログラム、④=1プログラム

分析項目6-3-2 ⑤=11プログラム、④=0プログラム

分析項目6-3-3 ④（工学部）

分析項目6-4-1 ⑤=10プログラム、④=1プログラム

分析項目6-4-2 ⑤=11プログラム、④=0プログラム

分析項目6-4-3 ⑤=10プログラム、④=1プログラム

分析項目6-5-1 ⑤=11プログラム、④=0プログラム

分析項目6-6-1 ⑤=9プログラム、④=2プログラム

分析項目6-6-2 ⑤（工学部）、⑤=10プログラム、④=1プログラム

分析項目6-6-3 ⑤=10プログラム、④=1プログラム

分析項目6-6-4 ⑤=4プログラム、④=6プログラム、③=1プログラム

分析項目6-6-5 ⑤=9プログラム、④=2プログラム

おおむね適切な状況である。

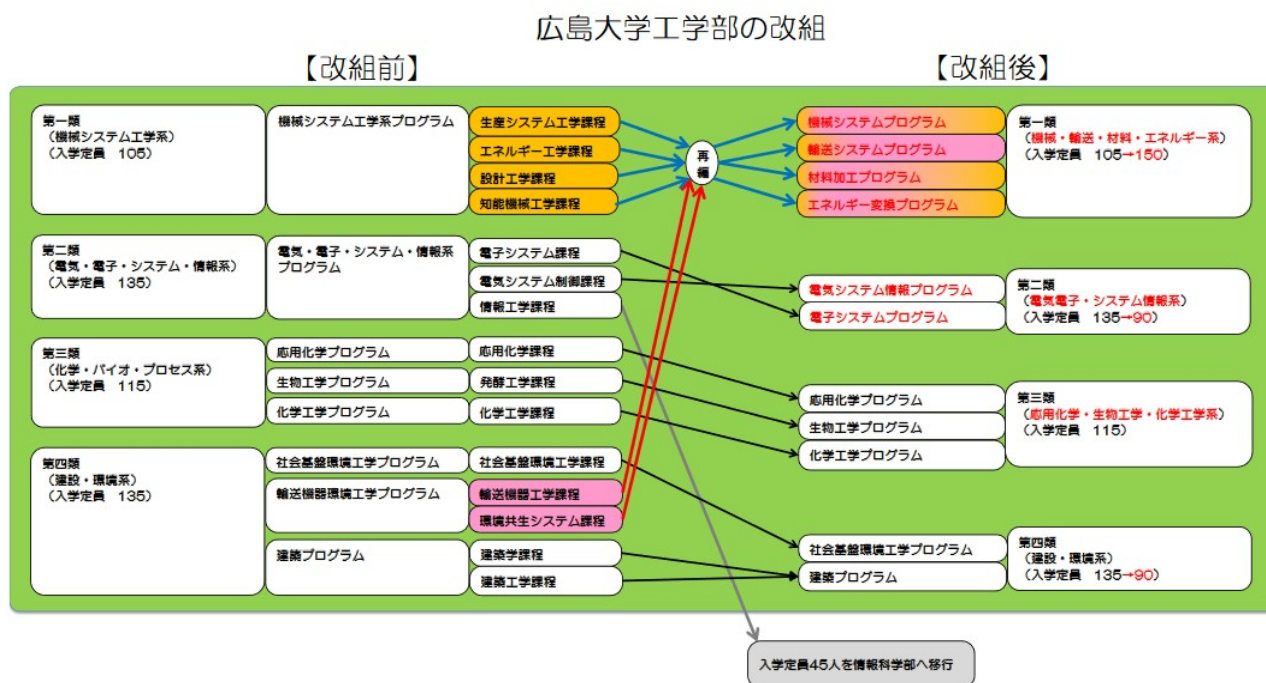
各主専攻プログラムで定められたカリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーに基づいて、教育課程が体系的に編成されプログラム詳述書にて公開されている。それぞれの授業科目について、授業の方法・内容は、成績評価の方法・基準等とともにシラバスに明記され学生に周知している。各主専攻プログラムでは、学生が研究に対する取り組みや研究成果の発表として、卒業論文発表を行っており、学外でも論文発表、研究発表を行う主専攻プログラムが多い。学生の研究活動の水準は高く、教育効果は十分に高いと考えられる。また、多くの学生は卒業後に大学院へ進学するが、いずれの主専攻プログラムにおいても就職率は非常に高く、このことから学習成果は十分に上がっているものと判断される。

分析項目6-3-3に相当する、履修上特別な支援を要する学生に対しては、アクセシビリティセンターが中心となり、各主専攻プログラムに支援教員を配置して、工学部全体として支援する体制を整備し支援を実施している。

また、分析項目6-6-2に該当する、教育分野で求められるスキルの伸長度からの学習効果の確認

の一つとして、工学部ではすべての主専攻プログラムにおいて、英語能力として公的な検定試験を卒業要件(TOEIC の場合 450 点以上)として課しており、学部全体として英語能力のベースアップを実現している。

なお、分析項目 6-6-4 に対応する、卒業生や進路先における関係者からの意見聴取に関しては、学士課程卒業時アンケートの活用は各主専攻プログラムにおいて実施されており、全学において「卒業時アンケート」及び「就職先からの意見聴取」を実施したため「改善した」といえる。また、当該項目について、令和 2 年度年次報告書では改組前の旧プログラムについて記載し、改善計画を作成した。令和 3 年度については、改組後の新プログラムで最初の卒業生が出たため、新プログラムにおいて報告及び改善計画を作成の上、旧プログラムでの改善状況を記載している。旧プログラムと新プログラムの対応は、下図のとおりである。



領域 7：教育の国際性に関する基準

分析項目 7-1-1 ④ (工学部)

分析項目 7-1-2 ④ (工学部)

おおむね適切な状況である。

留学生の受入は、必要となる実施体制等を工学部として整備しており、学生への留学プログラム等の周知や支援については、「My もみじ」、学部内掲示板等を通じて周知し、チューターや指導教員が支援にあたっている。

領域 8：リカレント教育の推進に関する基準

分析項目 8-1-1 ④ (工学部)

分析項目 8-1-2 ④ (工学部)

適切な状況である。

1件の履修証明プログラムを開設し、リカレント教育の推進を図っている。